



秋田市の ため池の 生きものたち



秋田の恵み豊かな環境を将来の世代に残し、
地球の環境を大切にしていくため、
「人にも地球にもやさしいあきた」の実現をめざす
「環境都市あきた宣言」を行いました。

環境都市あきた宣言

秋田から より良い環境を 地球へ 未来へ

わたしたちのまち秋田市は、桜舞う千秋公園をはじめ、夕日にはえる日本海、くれないに染まる太平山、白鳥のおとずれる雄物川と、四季おりおりの美しさがきわだつまちです。

わたしたちは、恵まれた自然の中で産業をはぐくみ、地域に根ざした伝統文化を大切に守りながら郷土を愛してくらしてきました。

しかし、今、わたしたちを取り巻く環境は確実に変わってきています。便利で豊かなくらしはその一方で、地域にとどまらず、地球全体の環境にも影響をおよぼし、ひとを含む多くの生き物の生存をもおびやかしかねない様々な問題を引き起こしています。

わたしたちは、これらの問題を解決していく強い意志をもち、先人から受け継がれた環境をより良いものとして次の世代に伝え、「人にも地球にもやさしいあきた」をつくることをここに宣言します。

- 1 清らかな水とさわやかな空気のもと、健やかなくらしを守ります。
- 1 多様な自然をとうとび、身近な緑に親しみ、豊かな心をはぐくみます。
- 1 知恵と工夫で、限りある資源とエネルギーを大切にします。
- 1 世代や地域を越えてともに語り、環(わ)となって取り組みます。
- 1 一人ひとりが秋田を知り、地球に学び、未来を思い、行動します。

平成16年7月19日
秋 田 市

目次

- ① はじめに 2
- ② ため池について 3
- ③ ため池にくらす生きものについて 3
- ④ ため池の在来種 4
- ⑤ ため池の外来種 14
- ⑥ わたしたちにできること 16

表紙に掲載した生き物の名前



秋田市大森山動物園内の塩曳瀧(ため池)

1 はじめに

秋田市では、市内の山や川などにどのような生きものがいるのかを調べる「自然環境調査」を行っています。

秋田市には豊かな自然がたくさん残っていて、特に「ため池」と呼ばれる池とその周辺には、色々な種類の生きものがすんでいることが分かりました。しかし、一方で、だんだん少なくなっているもの、全く見られなくなったものもありました。

この冊子では、これまでの調査で見つかった生きものたちについて、植物、鳥、魚、貝、両生類・昆虫の6つの種類に分けて生息状況を紹介しています。

秋田県版レッドデータブックカテゴリー

絶滅のおそれのある野生生物の保護を進めていくために、すでに絶滅したり近いうちに絶滅しそうな生きものの種類や原因について、まとめた本を「レッドデータブック」といいます。

「秋田県版レッドデータブックカテゴリー」とは、秋田県内のこれまでの調査結果から、種ごとの絶滅の危険性のランク付けに採用された基準を表しています。

これから紹介する生きものの中にも、絶滅の危険性が高いものがあります。次の基準表を参考にしてみましょう。

- 絶滅(EX)** …………… 本県ではすでに絶滅したと考えられる種。
- 野生絶滅(EW)** …………… 飼育・栽培下でのみ存続している種。
- 絶滅危惧 I A類(CR)** …… ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
- 絶滅危惧 I B類(EN)** …… 絶滅危惧 I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
- 絶滅危惧 II 類(VU)** …… 絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられているもの。
- 準絶滅危惧(NT)** …………… 存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。
- 情報不足(DD)** …………… 評価するだけの情報が不足している種。
- 留意種(留)** …………… 次のいずれかに該当する種

- ①本県では絶滅のおそれはないが、国際的、国内的に保護を要するとされている種。
- ②現在は保護策が講じられていて、差し迫った危機はないが、それが中止されれば絶滅危惧 II 類以上の危険度になる種。
- ③過去に個体数・分布が著しく減少した種。
- ④他の機関で準絶滅危惧以上の評価を受けている種の中で、本県での生息状況等に留意すべき種。

2 ため池について

秋田市には大小さまざまなため池が約300カ所あります。(秋田県のため池データベース(令和3年3月時点)による)

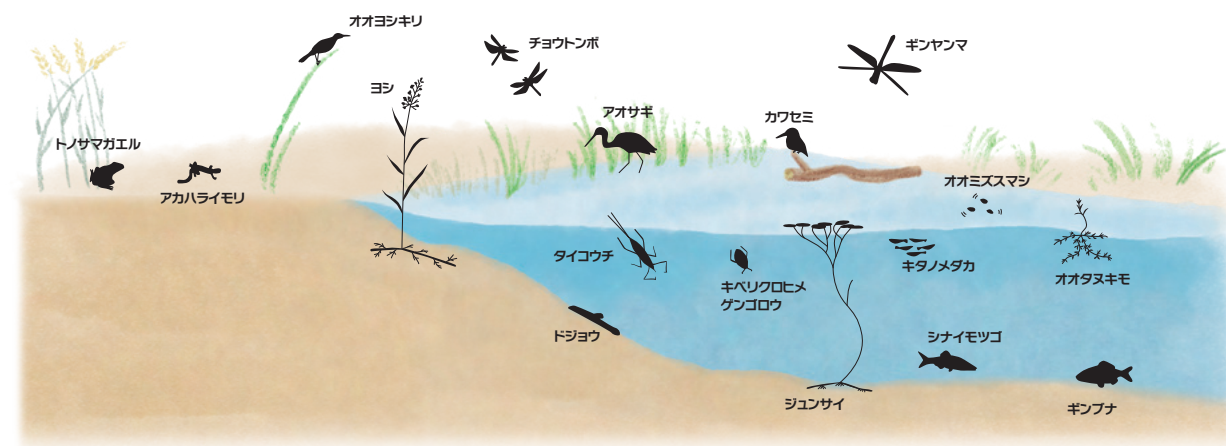
ため池とは、田んぼなどでつかう水を貯めている池のことです。水路で田んぼや畑とつながっていて、わたしたちが食べるお米や野菜を作るために必要であると同時に、植物、魚、昆虫、鳥など、たくさんの生きものが生息する場所としても大切な環境です。



塩曳潟(大森山動物園内) 地域の農業用水に使われているため池です。(令和2年7月6日撮影)

3 ため池にくらす生きものについて

ため池には水辺の植物や、昆虫、魚、それを食べるために集まる鳥など、たくさんの種類の生きものが複雑に関わりあって存在しています。



4 ため池の在来種

もともとその地域にいる生きものたちのことを「在来種」と言います。
 生きものは長い年月をかけて環境に合うように進化してきました。生きもの一つひとつに個性があり、それぞれが複雑に関わり合っています。
 在来種がたくさんいるため池が多いことが、秋田市の豊かな自然の特長のひとつです。
 調査で見つかった、たくさんの生きものたちのいくつかを紹介します。

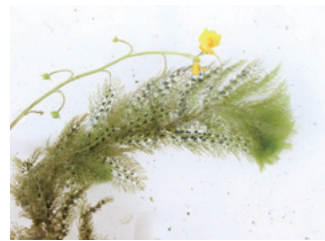
(1) 植物

岸辺の湿地から水中まで、水の深さなどによって色々な植物が生育しています。

① 浮遊植物 ……水中や水面に浮いている植物です。



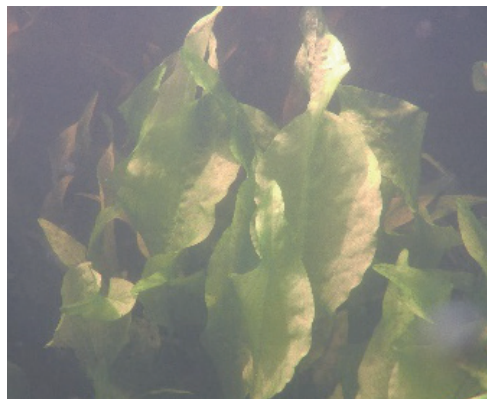
オオタヌキモ【秋田県：絶滅危惧Ⅱ類】
 水中に浮いている茎や葉の様子がタヌキのしっぽに似ています。7～9月に黄色の花を咲かせます。



ミニ情報

- 「捕虫のう(写真の黒っぽい点々)」で、小さな虫やプランクトンなどを吸い込んで栄養にする食虫植物。

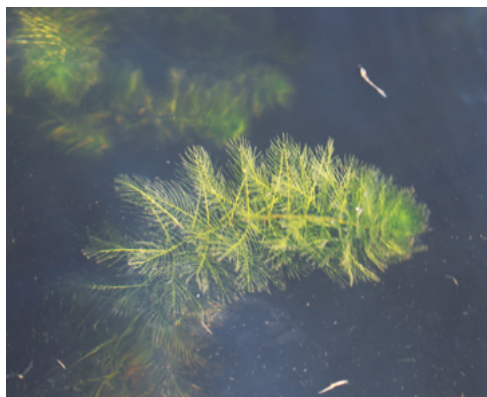
② 沈水植物 ……水の底に根を張り、茎や葉が水中に沈んでいる植物です。



ミズオオバコ【秋田県：準絶滅危惧】
 ため池の深いところほど、大きく育ちます。8～10月に白い花を咲かせます。



フサモ



ミニ情報

- 水中の植物でも、花は水上に咲かせることが多い。

③ 浮葉植物 ……水の底に根を張り、葉が水面に浮かぶ植物です。



ヒシモドキ【秋田県：絶滅危惧ⅠA類】
 全国的にも、とても少なくなっています。



ジュンサイ
 新芽は秋田の食材として有名です。



ヒツジグサ
 夏に、直径5センチくらいの花を咲かせます。

④ 抽水植物 ……水の底に根を張り、葉や茎が水の上に出ている植物です。



ヨシ
 水辺に多く生育し、魚や鳥のすみかにもなっています。



コウホネ
 夏に黄色の花を咲かせます。



ミクリ【秋田県：留意種】
 実が栗のイガに似ています。

コラム①

待入堤の水草群落

「群落」とは生息条件を同じくする植物が群がってはえているところです。
 金足の「待入堤の水草群落」は、ヒシモドキなど環境省および秋田県の絶滅のおそれのある種が多く確認されていることから、平成27年3月に秋田市指定文化財に指定されています。



金足地区の待入堤(撮影：平成29年9月16日)

(2) 鳥類



アオサギ

ため池にすむ魚やアメリカザリガニ、周囲のネズミなどを食べています。ため池だけに限って言えば、生態系の頂点にいる鳥です。



カイツブリ

潜ってため池にすむ魚を食べています。ため池の周囲に生えるヨシなどを上手に組んで、水に浮かぶ巣を作ります。



カワセミ【秋田県：準絶滅危惧】

美しい姿から「清流の宝石」とも呼ばれる鳥ですが、川だけでなく、ため池にもやってきて小魚を捕まえています。



オオバン

足を除いた全身が黒でくちばしと額だけが白い中型の水鳥です。魚よりも主に水草を食べています。



オオヨシキリ

ため池の周りで大きな声でさえずっている夏鳥です。特徴的な鳴き声のせいか「行行子(ぎょうぎょうし)」として俳句によく登場します。

(3) 魚類



ギンブナ

全国にみられる魚ですが、形態や遺伝、生態、分布など不明なことが多い魚でもあります。



ミニ情報

- 尾びれの上部に黒点が目立つのが、
- 在来種のドジョウの特徴。外来種のカラ
- ドジョウは黒点が目立たない、ヒゲが長
- い、尾の付け根が高い、全体に太く丸
- いなどの違いがある。

ドジョウ【秋田県：情報不足】

全国の水路や水田などに生息していますが、近年はコンクリート水路等の増加により少なくなっています。



キタノアカヒレタビラ【秋田県：絶滅危惧 IB類】

東北地方の日本海側の大河川やため池に生息していますが、非常に少ないです。春に二枚貝に卵を産みます。

※雑種 …… 種類の違う雄と雌の間に生まれた動植物です。



ミニ情報

- 日本のメダカは、地域によって
- ちがいがあることがわかり、「キタノメダカ」
- と「ミナメダカ」などに区別されている。

キタノメダカ【秋田県：絶滅危惧 II類】

日本海側の兵庫県から北に生息し、県内では平野部に生息していましたが、現在はその姿を見ることが少なくなりました。

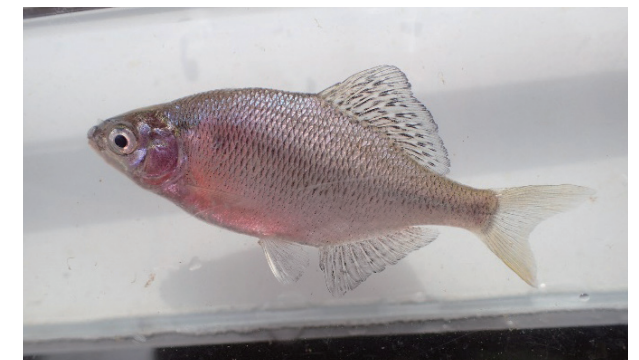


ミニ情報

- 宮城県の品井沼(しないぬま)
- が名前の由来。

シナイモツゴ【秋田県：絶滅危惧 IA類】

東北地方や北陸地方に分布していましたが、モツゴ(国内外来魚)が入ると雑種*をつくるため、最近ほとんどいなくなりました。



ゼニタナゴ【秋田県：絶滅危惧 IA類】

関東・東北地方に生息していましたが、現在は数県の数か所だけにしかいません。秋に二枚貝に卵を産み、翌春に稚魚が出ます。

(4) 貝類



オオタニシ
田んぼに多いマルタニシよりも水がきれいな場所を好み、大型になります。



ヌマガイ
15センチ前後の大きさになる大型の二枚貝です。



カワニナ
ため池や水路などに生息しています。細長い形の巻貝です。ゲンジボタルの幼虫の主なエサとなっています。

(5) 両生類・は虫類



トノサマガエル
水田やため池でよく見られる代表的なカエルです。春から秋まで活動し、冬は土の中で冬眠します。



アカハライモリ
水田や池でよく見られます。冬は水路の落ち葉の下や水辺の近くの石の下などで冬眠します。足やしっぽなどを再生する能力があります。



シマヘビ ため池周辺など水辺のほか、森林や草原にも生息します。カエルをエサとして好みます。

コラム②

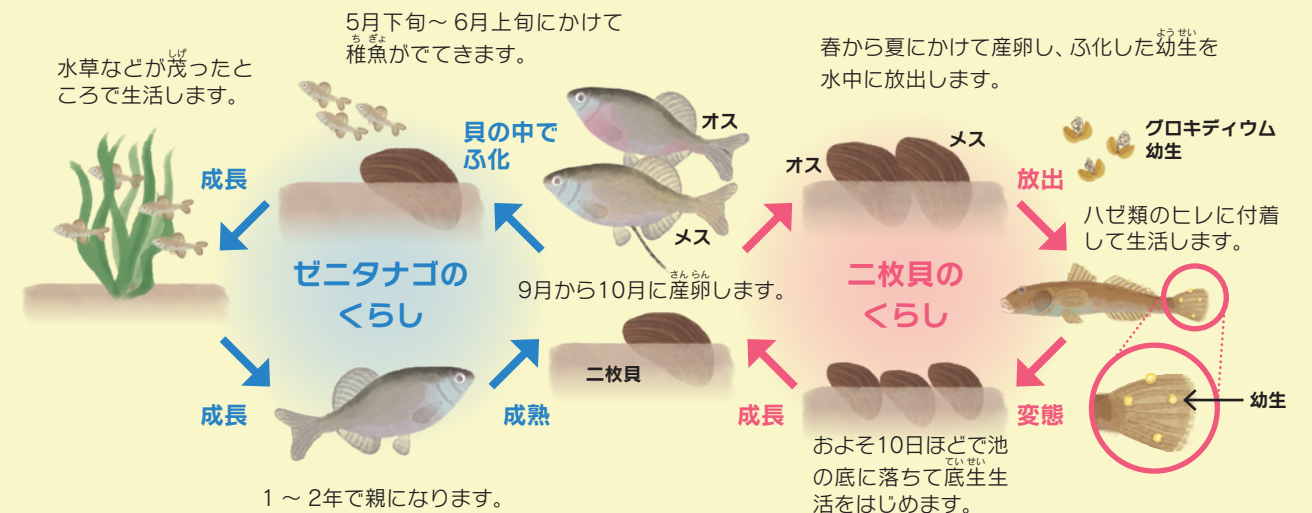
タナゴと二枚貝とハゼの不思議な関係

ゼニタナゴなどのタナゴの仲間は、二枚貝の中に卵を産むので、二枚貝がなければ生きていくことができません。

二枚貝は、小さな幼体のころにハゼの仲間のヒレなどに付着して成長するので、ハゼの仲間がいなければ増えることができません。

このように、タナゴの仲間と二枚貝とハゼの仲間は深く関わりあって生きているのです。

秋田市内には春に産卵するキタノアカヒレタビラやヤリタナゴのほか、秋に産卵するゼニタナゴがいます。しかしこれらのタナゴ類はとて少なくなっていて、近い将来に絶滅の危険性が極めて高いと考えられています。そうなる前に、どうすれば良いのか考えてみましょう。



(6) 昆虫

昆虫の中でも、幼虫の時代に水中で生活するものを水生昆虫といいます。また、水辺の植物を食べ、湿った環境の好きなものもたくさんいます。その代表が、トンボ、トビケラやゲンゴロウなどの甲虫です。ガの仲間では、ミズメイガなどのわずかな種類が水生昆虫に入ります。

タガメやタイコウチなどは、幼虫から成虫まで一生のほとんどを水の中で生活します。

トンボの仲間



ギンヤンマ
代表的なヤンマです。成虫になると水面近くを飛んで縄張りを張るのがみられます。



コシアキトンボ
黒っぽい体でおなかの付け根(腰)のあたりが白く目立ちます。一番暑い夏のころ、周囲に樹木の多いため池などによく見られます。



チョウトンボ
このトンボも夏に見られます。黒い幅の広いはねを持ったトンボで、ひらひらと飛ぶのでこの名が付けました。



クロイトトンボ
最も数が多いイトトンボです。水面をはうように飛び、水面の水草にとまります。



コサナエ
サナエトンボの仲間は流水性の種が多いのですが、コサナエは止水性のため池に多く見られます。春に成虫になり、夏には見られなくなります。



アオヤンマ
上：成虫
下：幼虫
初夏のころ見られる中型のヤンマです。ヨシやガマ、マコモなどの茎に卵を産み付けます。多くは水面より高いところに産み付けます。かえった幼虫は水に落下して水中で生活します。



オオセスジイトトンボ【秋田県：絶滅危惧IB類】
大きさは4センチくらいで、日本で最も大きいイトトンボです。秋田市では11か所の生息地が知られていましたが3か所に減っています。外来の捕食者の侵入や環境の変化、採集者の乱獲などが原因と考えられますが、はっきりしたことはわかっていません。

コラム③ 小泉瀧のオオキトンボ

日本のアカトンボの仲間では最も大きいトンボの仲間です。1970～1980年代には、金足の小泉瀧でたくさん飛んでいるのが見られましたが、現在はまったく見られなくなりました。秋田県では絶滅したとされています。人による環境の変化、採集者の乱獲が原因の一つと考えられます。



ガの仲間



マドラミズメイガ
 代表的なミズメイガです。幼虫にはエラがあり、水中で水草を食べます。



ムナカタミズメイガ【秋田県：絶滅危惧 IA類】
 秋田県内では3か所から知られていました。1か所は環境の変化で絶滅しました。あとは、にかほ市の湿原と秋田市の北部のため池だけです。個体数は大変少ないです。



キシジウスキヨトウ【秋田県：準絶滅危惧】
 幼虫はヨシの茎の中にもぐって中の組織を食べて育ちます。このような生活をする幼虫をポーラー（穴を掘る、ポーリング）といいます。ほとんどが絶滅危惧種に指定されています。

トビケラの仲間



ミニ情報

- トビケラの幼虫は、種類によって
- 水中の落ち葉、小石、砂などで巣を作って
- 生活する。

ウスイロコバントビケラ【秋田県：準絶滅危惧】 左：成虫 右：幼虫と巣
 幼虫は止水域（水の動きの小さいところ）の落葉だまりに生息し、切り抜いた葉を上下に張り合わせた巣を作ります。各地で採集記録はありますが、個体数は少ないです。巣の右に突き出た部分が幼虫の頭部です。

カメムシの仲間



タガメ【秋田県：絶滅危惧 II類】
 国内最大の水生昆虫です。水草が茂り、エサとなる小魚やカエルが多いところに生息しています。水面上の植物の茎などに産み付けられた卵をオスが守ります。

◎種の保存法で「国内希少野生動植物種」に指定されており、販売などを目的とした捕獲は禁止されています。



ホッケミズムシ
 ミズムシのなかまは、はねの下に呼吸のための空気をたくわえていて、水中で何かにつかまらないうちで浮いてしまいます。

ミニ情報

- アメンボやミズカマキリなども
- カメムシの仲間。



キベリクロヒメゲンゴロウ
 大きさは8～10ミリくらい。水に潜ることもできるし、空をとぶこともできます。肉食です。



タイコウチ(左)とオオコオイムシ(右)
 タイコウチは泳ぐ姿が太鼓を打っているように見えることから、オオコオイムシはオスの背中に産み付けられた卵を背負っていることから名付けられました。

甲虫類の仲間



オオミズスマシ
 大きさは7～12ミリくらい。水面を滑るように泳ぎます。敵から身を守るため目が4つあり、水の上と水中と両方一度に見ることができます。



ガムシ
 大きさは33～40ミリくらい。幼虫は巻貝などを食べますが、成虫は主に水草を食べます。

5 ため池の外来種

「外来種」とは、もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって、海外や国内のほかの地域から入ってきた生きもののことをいいます。

外来種のなかには、もともとそこにいる生きものたちを食べてしまったり、生息場所を奪ってしまったりして、生態系に大きな被害を与えているものがあります。

なかでも外来生物法で「特定外来生物」に指定されているものは、飼育・栽培、運搬、野外へ放すことが禁止されています。



【特定外来生物】



オオクチバス(ブラックバス)
もともとの生息地：北アメリカ
食用として日本に持ち込まれましたが、釣りの対象として全国に広げられ、秋田市内では1982年に確認されました。寿命が長く、オスが稚魚を保護して育てます。肉食で、水中の魚や昆虫をほとんど食べ尽くしてしまうため、漁業や生態系に大きな影響を与えています。全長30～50センチに成長します。

◎釣ったオオクチバスは、池に戻したり、別の池などに放したりせず、処分しましょう。



ウシガエル
もともとの生息地：北アメリカ
食用として日本に持ち込まれましたが、その後各地で野生化して、ほぼ日本全土に広がってしまいました。秋田県では、八郎湖水系に持ち込まれた後、米代川水系、雄物川水系に広がりました。昆虫、小鳥、ほかのカエルなど動いているものなら何でも飲み込んでしまうため、地域の生態系に大きな影響を与えています。全長20センチほどに成長します。

【緊急対策外来種】(積極的な防除が急がれる種)



アメリカザリガニ
もともとの生息地：北アメリカ
ウシガエルのエサとして日本に持ち込まれました。雑食で水草や水中の虫などを食べてしまいます。また、水草を切ってしまうことで、水質を悪化させたり、虫や魚のすみかをなくしたりしてしまいます。他の外来のザリガニは、すべて特定外来生物に指定されています。



ミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)
もともとの生息地：北アメリカ
ミドリガメとして販売されたものが、捨てられるなどして、ほぼ日本全土に広がってしまいました。秋田県では約20年前に生息が確認されています。

◎アメリカザリガニやアカミミガメは、特定外来生物ではありませんが、水辺の生態系にとっても大きな影響を与えてしまいます。飼っている人は絶対に野外に放してはいけません。

【その他の代表的な外来種】



モツゴ もともとの生息地：本州の関東から西
秋田では国内外来種になります。コイの養殖に混じって関東以西から移動してしまいました。在来種のシナイモツゴと雑種ができることにより、シナイモツゴは子孫を残せなくなってしまいます。

ミニ情報
○ もともと秋田にはいなかったため
○ 「国内外来種」。



園芸スイレン
もともとの生息地：ヨーロッパなど
セイヨウスイレンなどを品種改良して作られた園芸品種です。水面を覆い尽くして、水中の植物が光合成できなくなってしまいます。



フサジュンサイ(ハゴロモモ)
もともとの生息地：北アメリカ
観賞用の水草として販売されたものが野生化したと考えられています。ほかの水草の生息場所を奪ってしまいます。

ミニ情報
○ ペットショップやホームセンターなどで買った
○ 魚や水草を野外に放してはいけません。

「外来種被害予防三原則」～外来種対策は社会全体で取り組むことが必要です～
外来種による被害を予防するためには、次の三原則を守ることが必要です。

NO!

1 入れない
海外はもちろん国内の他地域からの生物を入れてはいけません。

NO!

2 捨てない
ペットなどを野外に捨ててはいけません。最後まで責任を持って飼いましょう。

NO!

3 拡げない
既に定着している外来生物を、移動してはいけません。

6 わたしたちにできること

豊かな自然は、きれいな空気、食料、燃料など、わたしたち人間にたくさんの恵みを与えています。自然が豊かな秋田ですが、人の手によってすみかを奪われたり、環境が変わったりして数が減っている生きものがあります。このまま生きものたちが減りつづけると、わたしたちは自然の恵みを受けることができなくなるかもしれません。

身近な自然の豊かさを守るために、何ができるか考えて行動してみましょう。

●身近な自然を知ろう

大森山動物園に行ってゼニタナゴの水そうや塩曳瀧を見よう。
小学生から参加できる調査や自然観察会もあるので、参加してみよう。



●自然の生きものを調べてみよう

気になる生きものを本で調べたり、先生や家族に聞いたりしてみよう。
めずらしい発見があるかもしれないよ。



●地元でとれるお米や旬の野菜を味わおう

たとえば遠くでとれた食べものを運ぶことや、季節外れの野菜やくだものをつくることは、たくさんのエネルギーを使います。できるだけ、地元のを旬に食べよう。



●物を買うときは、環境にやさしい商品を選ぼう。

「エシカル商品」という言葉を知っていますか？
環境への負担が少ないようにつくられたもので、エコマークなどのラベルがついています。買い物をするときの参考にしてみよう。



●生きものを飼うときは、最後まで責任をもって飼おう。

きちんと世話ができるか、最後まで育てることができるか、よく考えてみよう。

野外に放すことは絶対にやめましょう。



コラム④ 守ろう、秋田のゼニタナゴ

大森山動物園内のため池「塩曳瀧」には、絶滅危惧種である「ゼニタナゴ」が生息しています。大森山動物園では、稚魚を保護したり、外来種のアメリカザリガニやウシガエルを駆除したりするなど、ゼニタナゴを守る活動をしています。この活動には、動物園の職員のほか、秋田県立新屋高校の生徒や、NPO法人秋田水生生物保全協会が参加・協力して行っています。



園内のビジターセンターに展示されているゼニタナゴの水槽



新屋高校理科研究部の生徒たちによるウシガエルの駆除活動

小学生も参加した生きもの調査

【ご指導いただいた方々】

青谷晃吉氏 佐藤福男氏 猿田基氏 杉山秀樹氏
高田順氏 高橋雅彌氏 田中政行氏 船木信一氏

(五十音順)

【写真をご提供いただいた方々】

猿田基氏 高橋雅彌氏 田中政行氏 船木信一氏
NPO法人秋田水生生物保全協会

(五十音順)

※写真の著作権は各提供者に帰属するため、無断使用を禁じます。



秋田市のため池の生きものたち

令和4年3月

〒010-8560 秋田県秋田市山王1丁目1-1
秋田市環境部 環境総務課

